

平成31年4月16日
芸術文化スポーツ振興課

“大分のラグビーを盛り上げるにゃん！”

巨大寝ころび招き猫「福猫ふくにゃん」除幕式のお知らせ

昨年開催された「国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭」の豊後大野市リーディング事業で制作された「巨大寝ころび招き猫」は、朝倉文夫記念館のみならず大分県内に多くのお客様を招きました。

この度、ラグビーワールドカップ2019において、国内外から大分県に訪れる方々をおもてなしするため、巨大寝ころび招き猫が大分市へ出張（移設）することとなりました。

つきましては、除幕式を以下のとおり行いますのでお知らせします。

- 1 日時 平成31年4月16日（火）16：00～16：30
- 2 場所 大分市荷揚町（国道197号昭和通り交差点北側東エリア）
- 3 出席者 大分県知事
川野 文敏 豊後大野市長
久渡 晃 大分市副市長（市長代理）
深井 隆 東京藝術大学COI拠点顧問
宗像 健一 朝倉文夫記念館長
山田 耕司 大分県ラグビーフットボール協会会長
平倉 二三雄 OITA NOSIDE CLUB2019 会長
- 4 次第 知事あいさつ
豊後大野市長あいさつ
除幕（記念撮影）
関係者からのメッセージ
- 5 設置イメージ（クラブバナーを掲げた福猫ふくにゃん）



担当
芸術文化振興班 麻生・児玉
電話 097-506-2052・2055

作品介绍

朝倉文夫の後輩たちによる野外制作「巨大寝ころび招き猫」

「第33回国民文化祭・おおいた2018」、「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」の豊後大野市におけるリーディング事業（協力：大分アジア彫刻展実行委員会）の一環として「巨大寝ころび招き猫」が朝倉文雄記念館に平成30年9月2日に完成し、文化祭期間中に約1万人の観客を県内外から招きました。

「巨大寝ころび招き猫」は、像長10.4メートル、像高3.7メートル、幅2.5メートルの大物。わが国の近代彫塑の歴史を切り拓いた豊後大野市出身の朝倉文夫の後輩達【東京藝術大学彫刻科深井隆教授（当時）をリーダーとする10名】が、朝倉文夫の重要な題材の一つであった「猫」をテーマに作成し、朝倉文夫記念館横の円形広場に設置しました。

この「巨大寝ころび招き猫」は木製で、寄木造です。材料には豊後大野市産の杉を使用しています。現地を事前調査した深井教授（当時）らがその材質に惚れ込みこれを使用しました。4.4メートルに及ぶ「しっぽ」の先には、豊後大野市の市の木「クヌギ」を用いました。

制作リーダー 深井 隆 氏

彫刻家。1951年群馬県生まれ。1976年東京藝術大学美術学部彫刻科卒業。1989年平櫛田中賞。2013年紫綬褒章。

1984年より東京藝術大学美術学部彫刻科で指導にあたり、教授をつとめ、現在、東京藝術大学COI拠点顧問。

2006年開催の第8回大分アジア彫刻展より審査委員をつとめる。馬、椅子、本といったモチーフを木彫で展開。金箔を用いたバロック的な作品に特徴がある。

出張（移設）場所

場所：大分市荷揚町
（国道197号昭和通り交差点北側東エリア）

